

世界5大特許庁（IP5）におけるAI活用の最新動向：実証から実運用への転換点

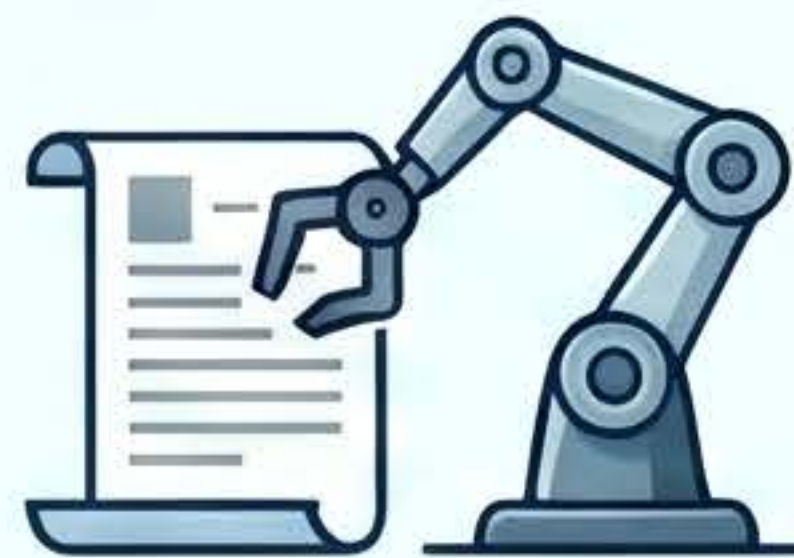
5庁に共通するAI活用の基本理念

タスクによる導入フェーズの温度差



実運用が進む分野

先行技術調査や画像検索は実運用が進む。



実証段階の分野

生成AIによる拒絶理由通知の起案は実証段階に留まる。



AIは人間を置き換えない支援ツール：
AIは審査官の能力を拡張 (Augment) するものであり、
特許性の最終判断は引き続き人間が担う。

国際協力の制度化（IP5）

2026年6月、AIに特化した新たな常設作業部会の設置に合意し、世界規模での連携が強化された。



各庁の到達度と主要プロジェクト

USPTOとCNIPAが実運用で先行



米国（USPTO）

SimSearchを全面運用し、
審査期間の短縮を実現。



中国（CNIPA）

AI支援検索を全面運用し、
審査期間の短縮を実現。

欧州（EPO）の検索精度向上

36%

全引用文献
を発見



25%

検索ギャップ
を解消

AI-PreSearchの導入

特許特化型LLMの構築（韓国・日本）



韓国（KIPO）

EXAONEベースの
独自モデルを構築中。



日本（JPO）

生成AIの審査適用を
技術実証中。

2026年6月時点での主要タスクにおける各庁の実装段階比較

	USPTO	EPO	JPO	CNIPA	KIPO	
先行技術調査	本格運用	運用中	導入フェーズ	運用中	構築中	
意匠・商標検索	本格運用	—	実証中	運用中	運用中	
生成AIの審査適用	限定的	パイロット	実証中	横索中	構築中	
	■ 本格運用	■ 運用中	■ 導入フェーズ/実証中/構築中	■ パイロット	■ 横索中	■ 非該当/データなし